

賀川豊彦・ハル生誕 130年 —見直される賀川思想と事業—

今年は、賀川豊彦とその妻ハルが生まれて130年になります。賀川豊彦と妻のハルさんは同い年です。ハルさんが少し早く生まれていますから、お姉さんです。ハルさんが1888年3月、賀川豊彦が7月です。

さて、東日本大震災が起こってから7年になりました。あの震災の時に、海外から救援隊と同時に、各国のテレビ局や新聞社等のメディアが被災地に集まり、取材を行い、自国に向けて日本の報告をしました。その時に各国の記者達が一様に驚きを持って報告をした事が有りました。それは「日本人はおかしいのではないか、自分が被害を受けているのに、救援の人達が来た時に、『私よりもっと被害を受けた人達がいるから、そちらの人達を先に救援してあげてください』というのです。自分たちがひどい被害を受けているのに、また、救援物資が来た時には、一列に並んで根気よく順番を待つのです。我れ先にと奪い合う事などしないのです。なんとというすばらしい国民性だ!」というような内容の報道が世界に流れました。

この2月で冬のオリンピックが終わりました。その最後の競技のカーリングや3人組のパシュートなどについて、同じような内容で外国のメディアによって報道されました。その内容は、日本人の特性は自分より先に相手の事を思う、その上で協力し合う国民性があるというものでした。日本国内でもこのような内容が意識されだしたのは、東日本大震災以降のようです。

戦後、日本人のほとんどは農協の組合員でした。今でも農村ではほぼ100%が農協の組合員です。都市に出てくると生協の組合員が60%です。共済に入っている人もだんだん増えてきました。農村ではほとんどの人がJA共済には入っています。都市では労働組合の人はほとんど全労済の会員です。公務員も共済に入っています。共済も、農協も、生協も助け合いの組織です。

日本人のほとんどの人は何らかの形で助け合いの組織である協同組合組織に入っていると言えます。労働金庫、信用組合も助け合いの組織です。農村に居る時は、日常的に助け合いをしながら生活してきました。稲刈りも、小川の修理も、土手の積み上げも皆で助け合ってやってきました。助け合う事やルールを守る事が出来ないと村では生活出来ないのです。助け合いの生活が根付いていました。その上に農協という組織が出来、助け合いの共済や生協等が根付いてきたのです。日本はガラパゴスと言われています。助け合うという社会が、純粋培養された国だといっても良いかと思われれます。賀川思想が底辺で純粋培養されてきたのではないのでしょうか。

2008年9月リーマンショックがおこり、世界経済がつぶれかけました。それからお金全盛の時代が反省されるようになりました。お金よりも豊かな生活があるのではないかと、そういう生活を追求する風潮が起こってきました。資本主義経済を見直さねば成らないのではないかと意見が出てきました。そのような風潮の中で助け合いの社会がクローズアップされています。この10年間、助け合いの協同組合の精神が再認識されだしたのではないのでしょうか。1936年に賀川豊彦がアメリカで提唱した『協同組合主義』が浮上してきました。

JAの基礎組織であった農民組合も、生協も、JA共済も、全労済も、労金も、信金も、賀川豊彦の指導で生まれています。貧しかった100年前の日本を豊かな日本へ。物質的にも、精神的にも豊かにする為に、自分のいのちを削って人の為に働いた賀川豊彦の精神と業績を、生誕130年の今年に、継承し、広く世の中に知らせなければなりません。賀川豊彦とハルの思想と業績が見直されようとしています。賀川豊彦に関わる我々は、賀川豊彦の思想と業績を世の中に広く知らせていかねば成りません。

参事 西 義人



天国屋 町の上映会 ナイトカフェ (12月~3月)

12月8日 マスタード・シード教会の 皆さんによるクリスマス・キャロルの演奏

最近、賀川記念館の近隣に開設されたマスタード・シード教会の皆さんによるクリスマス・キャロルの演奏が披露されました。練習を重ね当日を迎えての演奏でした。手作りのソングブックを片手に、観衆と共に楽しくクリスマスを味わいました。



1月19日 ローデさんの日本舞踊

ローデさんは、阪神淡路大震災の頃には神戸に在住しておられ、神戸に対する思いを強くもってくださっています。現在は京都の嵐山に在住。長年日本舞踊を習っておられ、その成果を発表していただきました。



2月9日 エルヴィス・プレスリー ギospelの世界 by エルヴィス・中野

兵庫県の高等学校の先生として教鞭に立たれる一方で、エルヴィス・プレスリーに捕らわれて、ずっと歌い続けてこられました。この度は、エルヴィスの信仰的な一面を見せる「ギospel」を歌声と映像を交えた興味深い演奏となりました。加えて、エルヴィス・中野さんと交友のある妹尾美加さん(下の写真右側)は「フルス」という中国民族楽器を演奏され、なおかつ妹尾さんの師匠である劉偉先生(下の写真左側)もモンゴルのホーミーを披露されて、楽しいひと時となりました。



3月9日 フルート&ピアノ演奏 ♪ばすてる♪



「ばすてる」は、友愛幼稚園の保護者を含むボランティアの音楽グループです。フルートとピアノの演奏です。春らしい楽曲をたくさん披露していただきました。特に、3.11に近かったことから「花は咲く」をみんなで合唱。心に残ったひと時でした。来年は1月の第3金曜日に演奏して下さる予定です。

2月24日 町の上映会『コスタリカの奇跡』

「コスタリカの奇跡」は、コスタリカが軍事力を放棄し、平和国家として成立するまでの歴史的な経緯をまとめたドキュメンタリー映画です。参加者は、28人。鑑賞後の語り合いの時間にも多くの人々が参加して、お互いの平和論議を交わしました。夢を実現させたコスタリカの説得力は凄い!!



賀川記念館ミュージアム

猪名川中学校 1 年生

70 名が見学に来られました

1月24日、神戸は底冷えのする寒い一日でした。授業で人権の学びの一つとして賀川豊彦のことを学ぶためとのことで、まだ幼さの残る生徒さんが訪ねてくれました。賀川記念館へは班別行動で集まってきましたが、数人が時間に遅れて来ました。大人の方へは何度も説明をさせていただいていますが、中学生に分かりやすいよう、パワーポイントを作り直して臨みました。1時間弱の話には、少し難しい部分もあり退屈されるのを心配しましたが、熱心に聴いてくれました。勿論、居眠りをする生徒はいませんでした。これは、大人の団体にはないことでした。リーダーの合図で、始まりと、終わりには立礼の挨拶があり、話す方としても身が引き締まる思いでした。終了後、遅れて来た生徒たちが、講壇まで来て詫言ってくれました。道を間違えたそうでした。礼儀にも厳しく躰けられている学校で、中学生から、学ぶ姿勢を教えられた有意義な1時間でした。賀川豊彦の思いを、今回のように若人の皆さんに知ってもらいたいと改めて痛感しました。

(語り部 志方 京三)



神戸イエス団教会 イースター礼拝のご案内

子どものイースター礼拝

4月1日(日) 9:30～ イースターハンティングおよびイースターエッグ作り

【午前の部】

4月1日(日) 10時30分～

説教 「ガリラヤで会おう！」 上内鏡子牧師

マルコによる福音書 16:1～8

【午後の部】

4月1日(日) 13時30分～ (雨天決行)

場所 舞子墓園 賀川記念納骨堂前

賛美と祈りのとき メッセージ「約束の実現」 上内鏡子牧師



日本キリスト教団 神戸イエス団教会 tel 078 (251) 4870

賀川記念館のボランティア ⑪

賀川記念館ではたくさんのボランティアの方々に関わっていただいています。今回は、外国にルーツを持つ子どもの学習教室「はいず」でボランティアとして活動しておられる、前田優衣さんを紹介させていただきます。

まえだ ゆい
甲南女子大学 前田 優衣 さん

私は大学2年生の時に専攻したゼミをきっかけに、外国にルーツを持つ子ども達の学習支援のボランティア活動を始めました。学校ではサポートしきれない部分を、主に私達ボランティアスタッフが「はいず」で学習支援を行っています。私達の支援は日本で暮らす彼らにとって、とても大切なことだと思います。なぜなら、彼らが日本で生活することは私達が想像している以上に大変なことだからです。このことに気づいたきっかけは、私が大学3年生の時にカナダに語学留学をしたときです。カナダで生活して、私は今まで感じたことのない自分がアジア人としてのコンプレックスを感じ、人目を気にしながら生活している自分がありました。そして、英語を満足に話すことが出来ず、理解出来ないことに対するストレスを日々感じ、毎日悩みながら生活していました。実際に彼らの立場になり、生活してみても、日本という異国の地で暮らす彼らの辛さや大変さを知ることが出来ました。



それからは、「はいず」での活動がいかに彼らにとって大切であるということに気づきました。「はいず」は、自分と同じ境遇の仲間達と共に話し、彼らの持つ文化を共有することの出来る貴重な場所です。さらに学習支援のサポート以外にも、私達ボランティアスタッフが彼らと話しをして、寄り添いながらサポートしてあげることが、彼らの心のよりどころになっているのではないかと思います。



『賀川豊彦を実践する』～地域で様々な活躍をする人達～

“100年シンポジウム”の目的は、分野、業界を縦横断して100年を遡って検証し、100年先のビジョンを視野に、共に生きる社会を模索する企画です。100年続ける事を目指します。その目的を再度確認し、100年という視野での取り組みや考え方に触れる事を通じて、私たちの“これから”を考えます。

今回のタイトルは『賀川豊彦を実践する』～地域で様々な活躍をする人達～です。

トップバッターの和田幹司氏は、定年前から、主に震災後の長田地区に於ける『FM わいわい』のパーソナリティー、ミニコミ紙の編集など様々な町おこしや、1.17 ロウソクづくりを小・中学生と一緒にこなす等の復興活動を23年続けて来られた事についてご報告いただきました。

伴武澄氏は、退職後、郷里の高知県に帰り、賀川豊彦の書籍を電子化して出版する賀川おこしの活動や、炭焼き・山菜販売等での村おこし、また「はりまや橋夜会」をおこし、村の青年達と地域の活性化等の取り組みをご報告いただきました。

馬場一郎氏は、友愛幼稚園の園長を兼務しながら賀川記念館の館長として、賀川豊彦の精神を引き継ぐ地域活動を行い、課題を持つ子ども達と勉強や遠足、食事作り等を行っ

て学習とともに社会性を育てる活動を、また外国にルーツを持つ子ども達の学習教室を開いている事などをご報告いただきました。

山添令子氏からは、病院での拭き取り布作り、学童保育の子ども達のためのお菓子作り、暮らしの助け合い活動などコープこうべ組合員の社会奉仕、社会貢献活動や、自己啓発活動についてご報告いただきました。

伊藤潤子氏からは、コープこうべと日生協の理事を卒業後に、賀川記念館の語り部になり、賀川豊彦の書籍を読み、来館者に賀川豊彦についてお伝えする活動をして来られた、その活動を通じて、自己の成長をはかれたとご報告がありました。

コーディネーターの法橋 聡氏は、「このようにそれぞれのご経験から、現役、現役卒業後の社会貢献活動の実践について貴重なお話をいただきました。皆さまのそれぞれの活動がまさに賀川の精神を引き継ぐ活動であり、定年後に花咲いているように感じました。」と締めくくられました。賀川の精神が脈々と続いている事が分かり、現役の人々の未来の活動の指針に成ったのではないかと感じる事の出来るシンポジウムでした。

2017年度賀川賞決まる!!

賀川賞

あなたは 弱い立場の人々のために
未来に希望を持つ子どもたちのために また地球の環境を守るために
ご自分の時間を使い

人知れず あるいは仲間を広げて 努力を続けてこられました
このようなあなたの行ないは

賀川豊彦とその仲間たちの献身活動を 現代に引き継ぐ働きです

困難に遭ったとき よい社会を創りたいとき 平和を求めるとき
人は 問います 『賀川豊彦はいませんか?』と
私たちは 『ここにいます』と あなたをもって応えます
あなたの働きにこころより感謝をいたします

あなたの働きが 社会の中で消えない ともしび となることを願って
ここに賀川賞をお贈りいたします

3月3日、シンポジウムに先だって、13時45分から『賀川賞の贈呈式』を行いました。この賀川賞は、その方やグループの皆様に感謝し、この賞がこれからの活動の糧に成る事を願って、感謝状とブロンズ像を贈呈するものです。

2017年度『賀川賞』のみなさま

1) ミスターエイト様

1999年、コープこうべ主催の『男性ボランティア講座』を受講し、自分たちが今迄やって来た技術や知識を活かした男性ならではのボランティア活動を通じて、社会貢献を行ってられます。





1月14日(土) 奥田知志さん
(NPO法人抱樸理事長)



2月10日(土) 橋本祐子さん
(関西学院大学 教育学部 教授)

いのちが分断される時代に ～伴走と言う生き方～

去る1月14日(日)、東八幡キリスト教会の牧師、およびNPO法人「抱樸」理事長である奥田知志さんを招いて特別伝道礼拝および講演会を行いました。参加者は、70人を超えて、礼拝堂が一杯になりました。こちらから依頼したテーマは『信教の自由』でした。この不寛容な空気が漂う時代の中で、わたしたちが、立場の違うひとりの人間としてどのように生きていけるのか、多くの聴衆の関心を捉えました。午前中の礼拝で「信教の自由」とは、苦難の中で祈れないと自らを曝け出すことのできる信仰を持ちうる自由、そして、祈れない自分が沈黙の中で神の声に心を傾けることができる自由と、奥田さんのお話を理解しました。また、午後の講演題は「いのちが分断される時代に～伴走と言う生き方～」でした。講演の最後に「基督教の救済論では救えない。むしろ、それは、救われた人と救われない人の間にスクラッチする(ガリガリと線を引く)ことにしかならない」と語られました。十字架の贖罪は大切ですが、その贖罪は一回きりのイエスの十字架によって全ての人が救われています。その神がわたしたちと共に伴走してくれています。

(神戸イエス団教会週報1月21日付 牧師のひとり言より)

松沢栄一氏が賀川賞のためにつくられたブロンズ像「ともしび」です。賀川豊彦の大好きな幼子が世界に光をかけています。



2) 和田 幹司 様

阪神大震災後、長田の復興のために23年間働いて来られました。例えば小・中学生と一緒に1.17の口ウソク作りや新長田駅前広場での追悼行事を続けておられます。また、『FMわいわい』のパーソナリティーやミニコミ紙の編集を行ったり、町おこしのリーダーとして活躍しておられます。



幼児の主体的・対話的で深い学びについて考えましょう —要領・指針の改訂(定)を受けて—

2月10日(土)14時より、賀川記念館では、昨年2017年3月11日に行われた講演会の第2弾として、関西学院大学教育学部教授の橋本祐子氏を講師にお迎えし、幼児期の教育について考える時を持ちました。参加者は、54名。1時間半の講演と45分程のグループでの共有。聴くことだけでなくそれぞれの感想を交え、語り合う時間が持てました。

今回の要領・指針の改訂(定)のポイントは、以下の通りです。

1. 3歳以上の子どもについての「幼児教育の共通化」
2. 子ども・子育て支援新制度での「幼児教育の『質』の方向性」
3. 小学校から見たときの「幼児教育で育つ力の明確化」

子どもたちの生きる力を育むために、私たち保育者はどのようなことを大切にすれば良いのでしょうか。「環境を通して育む教育・保育」では環境だけを用意すれば良いのでしょうか。「ただ遊ばせるだけの教育・保育」、いいえ、必要なのは、子どもが主体的に「学ぶ」という視点です。では、主体的に「学ぶ」とは～大人が直接「教える」という視点から、子どもが主体的に「学ぶ」という視点へと。

講演の中では、DVDを見ながら、A・B・C園の実践を通して主体的な「学び」を支える視点について、また保育者の役割について考える機会を与えられました。また、45分程の短い時間ではありましたが、同じ園や他の園の方々や保育について語り合い、振り返る時間が持てたことも参加者には有意義でした。

日々の生活においても、着替え、食事とその準備、片付け、おやつを配るなど、基本的な生活習慣やルーティンの中にも子どもが考えるチャンスはたくさんあります。子どもは大人だったらしないこともたくさんします。しかし、考えるチャンスがあればあるほど、子どもは自分で考えるようになります。いろいろなものや人に関わり、感じ、考え、何かを見つけようとする過程で、子どもの姿はどう変化しているかを見る目を私たちも養いたいものです。保育者自身も主体的・対話的で深く学ぶ者でありたいと思いました。この学びを生かしていくことと、第3弾・第4弾へと、より多くの教育・保育に携わる方々との学びを子どもたちのために共有していきたいと強く思いました。

天国屋カフェの通常営業は 毎週：木・金・土

11時から16時まで(ランチは、12時から)
ランチ：500円 コーヒー・紅茶：250円 オリジナルケーキ：200円

天国屋カフェホームページをぜひご覧下さい!!

<http://tengokuya.pepper.jp/>

トランジションタウン神戸

トランジション・タウンをご存知ですか？

天国屋カフェは、2017年度3月より、町の上映会を定期的を実施しています。この企画は、トランジションタウン神戸というグループを基盤にした種まきシアターとの協働です。この一年で、トランジションタウン神戸とは、様々な活動の目的が重なっていることに気づき、互いに協力していく姿勢で、活動の推進を進めています。この度は、そのトランジションタウン神戸の活動紹介を中心メンバーである清野健太郎氏にお願いしました。

トランジション (transition) は、移行・転機を意味します。トランジション・タウンの活動は、もともと「ピークオイル (石油産出量のピーク)」と「気候変動 (地球温暖化)」、そして「世界的な金融危機」に対して、地域のコミュニティが持続可能で、地域住民の創造力や適応力、団結力を引き出して、しなやかに対応できるつながりをつくってゆくことを目的としています。トランジション・タウンは略してTTと表しますが、日本ではTT=「たのしく、つながる」とも表現しています。

トランジション・タウンは2005年秋、イギリス南部デボン州の小さな町トットネスでパーマカルチャー&自然建築の講師のロブ・ホブキンスを中心に始まりました。その後、イギリス全土はもちろんのこと、欧州各国、北南米、オセアニアなど世界中の2000を超える地域、日本では60か所の地域に活動が広がっています (2018年2月現在)。

エコロジカルフットプリント (人間の生活や事業などがどれだけ自然環境に依存しているかを、自然資源の消費量を土地面積で表す) という指標がありますが、それによると世界のすべての人々が日本人と同じ生活をしたら地球2.9個、アメリカ人と同じなら4.8個、世界平均でも1.6個必要だと言われています (「生きている地球レポート2016」WWF)。実際には地球は1個しかないのです。このままの私たちの暮らし方では持続可能ではないということ。未来にわたって私たちが地球に残るためには、地球の自然資源の再生能力を人間の消費が越えないことが必要です。その意味でも「エネルギーを大量に消費する脆弱で持続不可能な社会」から、「適正な量のエネルギーを使いながら、地域の人々が協力しあ



う柔軟にして強靱な持続可能な社会」への移行 (トランジション) が求められています。

エネルギーや食料、心や身体の健康、気候変動や環境の変化、格差社会や社会に参加できない人の増加など、いまの社会が抱えているたくさんの困ったこと、解決しなければならぬ問題をあつという間に解決することはできません。でも、もし地域のコミュニティのつながりを強くしながら、みんなで考え、行動すれば、そうした問題を同時に解決できるかもしれない。それがトランジション・タウンの考え方です。

トランジション・タウンの具体的な活動は、各地域の特色や参加メンバーの関心によって様々です。持続可能な社会へ向かうために、地域の仲間と一緒に地元の資源を使ってエネルギーをつくり出すこと、地域の人々が集まって菜園や田んぼを作ること、勉強会や上映会を開いて私たちの住む社会の問題意識を共有すること、昔から伝わっていて途切れてしまった技術を蘇らせること、お年寄りから昔の知恵を学ぶこと、今とは違う暮らし方を見つけ出すことなどが行われています。

トランジションタウン神戸では、神戸を中心に活動しています。賀川記念館では、天国屋カフェと協働して「町の上映会」を企画させて頂いたり、月1回の昼のミーティングを天国屋カフェで利用させて頂いています。今後は、賀川豊彦の立体農業がルーツであるフォレストガーデンにも力を入れて取り組んでいく計画です。

●トランジションタウン神戸 (TT神戸)

- ・立ち上げ日: 2016年4月22日(アースデイ)
- ・参加メンバー 36名(2018年2月現在)
- ・合意事項: お互いを尊重する、命を大切に、楽しむ、無理しない、マイペース、自分達から始める、学びを分かち合う、利己的なビジネスを持ち込まない
- ・主な活動: 定例ミーティング (昼の部、夜の部)、各部活動
- ・各部活動: 米部(米の自給)、上映部(自主上映会)、放送部(ネイバース・レディオ)、フォレストガーデン部 (食べられる菜園づくり)、よろず相談部 (地域の困り事お手伝い)、イベント協力 (アースデイ神戸など) ほか
- ・ホームページ: <https://ttkobe.jimdo.com/>
- ・Facebook ページ: <https://m.facebook.com/transitionkobe/>
- ・Twitter: @transitionkobe
- ・E-Mail transitionkobe@gmail.com



2017年

11月

- 10 (金) 全労済関東統括本部 (出張講演)
- 11 (土) 五条人権擁護委員会 (説明・見学)
講演会 (講師: 茂木美知子さん)
- 15 (水) 東山東地区人権委員会 (説明・見学)
- 17 (金) ナイトカフェ (アジア学院との交流)
- 18 (土) 神戸市教職員組合 (展示説明) アジア学院との交流
- 19 (日) 鳴尾教会 (展示説明)
- 22 (水) 神戸市教育委員会 (説明・見学)
- 24 (金) 三木市人権推進協議会 (説明・見学)

12月

- 1 (金) 三菱電機労働組合 (説明・見学)
- 5 (火) コープこうべ第3地区活動本部 (説明・見学)
- 6 (水) 滋賀県湖東農業農村振興事務所 (説明・見学)
- 8 (金) ナイトカフェ (演奏: マスタード・シード教会)
- 9 (土) MDIS 労組 (見学)
- 12 (火) コア100賀川例会 (神戸 YMCA)
- 13 (水) コープこうべ組合員理事 (説明・見学)
- 17 (日) 神鋼鋼線工業労働組合 (説明・見学)
兵庫教育大学 (説明・見学)
- 23 (祝) ひょうご部落解放・人権研究所 (展示説明)

2018年

1月

- 9 (火) 語り部の会

賀川記念館の歩み

- 10 (水) 東京人企連①(見学) 東京人企連②(説明・見学)
- 12 (金) ひょうご部落解放・人権研究所 (説明・見学)
- 13 (土) トランジションタウン神戸定例会
- 14 (日) 講演会 (講師: 奥田知志さん)
- 19 (金) ナイトカフェ (ローデさんの日本舞踊)
- 24 (水) 猪名川中学校 (説明・見学)
岡山県労福協 (説明・見学)
日生協人づくり支援センター (説明・見学)

2月

- 6 (火) 名城大学生協 (説明・見学)
- 7 (水) 語り部の会
- 9 (金) JA 共済連佐賀 (説明・見学)
ナイトカフェ (演奏: エルヴィス・中野)
- 10 (土) 講演会 (講師: 橋本祐子さん)
- 12 (祝) JA 共済連鹿児島 (説明・見学)
- 18 (日) 奈良五条田園地区人推協 (説明・見学)
- 24 (土) 町の上映会 (コスタリカの奇跡)
- 27 (火) 渚中学校 (展示説明)

記念館ミュージアム入場者数

11月	一般 46名	団体 179名	行事 773名	合計 998名
12月	一般 30名	団体 111名	行事 189名	合計 330名
1月	一般 40名	団体 189名	行事 258名	合計 487名
2月	一般 44名	団体 59名	行事 280名	合計 383名

賀川記念館 賛助会から

いつも賀川記念館をお支えいただきましてありがとうございます。2017年11月1日から2018年2月28日までの報告をさせていただきます。

賛助会費	313,000
寄付金	357,680
クリスマス献金	200,449
真愛ホーム・友愛幼稚園寄付金	15,000
<hr/>	
総合計	886,129

これからも皆様のお支えにより、さまざまな活動を行ってまいります。今後とも引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

賀川記念館賛助会 ご入会とご継続のお願い

日頃は、賀川記念館の活動にご理解、ご協力いただき心より感謝いたします。さて、新年度も賛助会員として賀川記念館の活動をお支えいただきたく、お願いとご案内をさせていただきます。皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

賛助会 賀川記念館の働きを支援することを目的としています。

賛助会会費

年額は下記の通りとし、一口以上、上限はありません。

個人：一口 1,000円

団体：一口 10,000円

会費は年度ごとの更新とします。

賛助会員入会と退会

「賀川記念館賛助会 入会申込書」に必要事項をご記入いただき、会費を納入ください。

退会される場合は事務局までご連絡ください。

賛助会費の用途

賀川記念館の諸事業に活用いたします。

賛助会費の税控除

個人の方は、所得税にかかわる寄付金控除の対象になります。

団体の方は、法人税法により「損金算入」することができます。

領収書をご希望の方はお申し出ください。

賛助会費のお振り込み方法

郵便局：01140-8-3721 社会福祉法人イエス団 賀川記念館

銀行：三井住友 三宮支店 普通 3253938

お知らせ
鳥飼慶陽先生の KAGAWA GALAXY(4) は、先生のご都合で、しばらくお休みいたします。

賀川豊彦召天58周年記念集会

今年賀川豊彦が天に召されて58年になります。

この時代に賀川精神を如何に継承すべきかを共に考えたいと思います。
どうぞ多数ご参加下さいませよう、お待ちしております。

■とき：2018年4月21日（土）午後1時～2時30分

■ところ：賀川記念館4Fメモリアルホール

※2015年より集会の場所が舞子墓園から賀川記念館がわっています。

場所をお間違えないようご注意ください。

■テーマ：「農民福音学校と立体農業」

■講師：藤崎盛清氏（豊島公民館館長）

<講師プロフィール>

1947年生まれ。1970年3月東京農業大学農学部卒業。

1970年4月～1971年3月、1年間アメリカ農業実習に行かれ、

1971年6月から就農、現在に至る。

賀川豊彦と立体農業に力を尽くした藤崎盛一さんのご息。

☆参加無料 お申込みは、賀川記念館事務局まで。

記念集会終了後、有志の方で神戸市立舞子墓園まで墓参に行きます。

(15時～17時頃の予定) 墓参をご希望される方はお車の準備の都合上、

4月6日(金)までに事務局までお知らせください。(tel 078-221-3627)



賀川豊彦の文学展のお知らせ

賀川豊彦がノーベル平和賞の候補になっていた事をご存知の方は多いと思いますが、ノーベル文学賞の候補になっていたことは、誰もご存じなかったと思います。2008年に毎日新聞社が『賀川豊彦が1947年と1948年のノーベル文学賞候補であった。』とスクープしました。1910年に自叙伝のような小説『死線を越えて』の上巻が発売され、瞬く間に100万部売れたと言われていています。大ベストセラーです。その本が世界各国17カ国語に翻訳されました結果、1930年代には『賀川・ガンジー・シュバイツワー、世界の3大聖人』と

言われ尊敬されました。このような経過をへて、ノーベル文学賞の候補になったと思われます。賀川豊彦は生涯ハードブックで316冊の書籍を書いておられます。それらの本を自伝系小説、虚構系小説、空想科学小説、詩歌、随筆、紀行文その他に分類し、それぞれに解説を加えた展示会を企画します。賀川豊彦の思想、信条と賀川豊彦の優しさに出会えます。どうぞお越し下さい。お待ちしております。

期間：4月1日（日）～29日（日）

場所：賀川記念館ミュージアム

賀川ハル展のお知らせ

今年賀川豊彦・ハルの生誕130年の年です。お二人とも生きておられたら130才です。ハルさんがお姉さんで3月生まれ、賀川豊彦が7月生まれです。二人の生まれた月の真ん中をとって、5月に『ハル展』を行います。賀川記念館の語り部の皆さんと相談をして、楽しいハル展に成るよう企画しますので、どうぞご期待ください。詳細が決定しましたら、ホームページでお知らせ致します。

期間：5月1日（火）～31日（木）

場所：賀川記念館ミュージアム



ボランティア vol. 116
賀川記念館
KAGAWA MEMORIAL CENTER
esus band 社会福祉法人・学校法人 イエス団

発行日 2018年3月30日

発行者 馬場一郎

発行所 賀川記念館

〒651-0076 兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20

tel : 078-221-3627 fax : 078-221-0810

ホームページ <http://core100.net>

お問い合わせ E-mail office@core100.net